

# 地下鉄駅から登れるソウルの山

和田 澄子

◎ 2016年 夏

岳人6月号の特集は韓国の山。地下鉄でアクセス簡単な山が幾つもあるらしい。スッキリした岩山からはソウルの街並みが望める。行きたくなってきた。で、何人かに声をかけたが、急なことと人徳の無さ故、同行者は見つからなかった。だが思い立ったが吉日とばかりフリープランのツアーを申し込み、記事を見てから2週間後には仁川空港に降り立っていた。

羽田空港日曜早朝発、仁川空港月曜夜発。初日は昼頃に登山口駅に着け、翌日は丸一日時間がある。初日は道峰山(トボンサン)740mに決めた。空港からソウル、地下鉄と乗り継ぎ、一号線トボンサン駅に着いたのが11時45分。韓国は登山人口が多いと書かれてあったが、車中もカラフルなウェアに身を包んだ老若男女でいっぱい。その殆どがこの駅で降りた。後をついていけばトボンサンに着くと思われた。迷うわけがない。両脇に立ち並ぶ登山道具店をひやかし、露店で昼食用にキムパブと水を1リットル買った。ちなみに私、以前済州島の漢拏山に登った際に買った、ちょっとだけ派手目の韓国カラーのポロシャツを着てみました。

2時間後、なぜか谷を挟んでトボンサンを望む岩の上にいた。UIAM ROCKと言うらしい。人の多さに閉口し、ある分岐を人の少ない方へと登っていった。すぐ上で合流するから大丈夫!と。しかし、登るにつれ目指したはずのトボンサンは遠のき……。どこかで分岐を見逃した……。それにしても展望台からの五峰(オボン)、道峰山の立派なこと! 次回あの頂に立てばいいんだ。また来よう。優しい単独行の男性に記念写真を撮ってもらった。カムサハムニダ。



(UIAM 直下の展望台)

二日目は水落山に登る。泊まったホテルは仁寺洞にある。水落山登山口に近い駅は長岩(チャンアム)。地下鉄のどの駅で乗り換えれば早いかを調べるのも楽しい。疲れているはずなのに明日の山を想うとワクワク、目が冴えてなかなか寝付けない。

翌朝、9時過ぎにチャンアム駅に着いたが、昨日と打って変わって登山者が見当たらない。少し迷い、登山口に無事到着。晴れ女の面目躍如、今日も快晴、気温は既に30度を超えている。昨日の失敗から、今日は行程をハングルで書いたメモを持ってきた。道標と見比べながら慎重に沢沿いに進む。木々が繁り葉陰は涼しい。朝の散歩を楽しんでいるらしい三人組に出会った。

アンニョンハセヨ!どこに行くんだ?と話しかけられた(と思う)。すかさずメモを見せ、イルポネソワツソヨ(日本から来ました)、とニコリしてみた。一人で登る日本のおばさんが珍しいとみえ、親切におしえてくれるが、挨拶しか覚えていないので答えようがなく、気持ちを込めてカムサハムニダ!

それにしても暑い!そして荷物がやけに重い。昨夜、せっかくソウルに来たのだからと、賑やかな明洞まで足を運んで職場の仲間に土産を買った。韓国なら化粧品でしょ!なんとそれらがすべて詰まった重いザックを背負っている。駅にコインロッカーあるかな?なんて甘かった。日本じゃないんだから! あはは……。今日の上天気が恨めしい。

11時半水落山山頂着。誰もいない。独り占めの山頂。そういえば今日は月曜日だった。花崗岩の上に国旗がはためいている。下方に目をやればソウル近郊の町のアパート群が見える。地下鉄駅の改札を出て2時間半でここにいる。昨日見た光景を思い出す。何人かのグループが大声でお喋りしながら元気よく登っていく。そしてキョロキョロしたかと思うと、登山道から逸れて山の中の平坦な地を見つけシートを敷いて輪になる。キムパプやマッコリが並べられ宴会が始まるのだ。気をつけてみればそれ用の脇道と平坦地がそこここにある、同じような光景が幾つもの、それこそずっと頂上まで繰り返されていた。職場の仲間同士、ご近所さん同士の井戸端会議？山と街が近いってことだなあ。

山頂の巨大な花崗岩の上で、登ってきたばかりの男性に写真を撮ってもらいながら、成り立たない会話を楽しんでいる。異国の地の山にいる緊張感がない自分に驚く。

今朝、登山口を探してウロウロしていた時感じていたドキドキは山に入ると無くなった。日本の山も韓国の山も、登りは辛い。休憩しながら風に吹かれるとまた頑張ろうと思ひ、山頂ではすべて忘れてまた来たくなる。山で会う人は山が好き。当たり前なことだけど、それがホッとする理由？それとも歳をとって怖いものが無くなったのか。何れにしてもすごく幸せだ。

下りで初めて単独行の女性と出会った。どちらともなく声をかけ合い、話すうち中国の方だと分かり大笑い。と言うのも相手は私を韓国、私は相手を韓国だと思ひ、互いにアンニョンハセヨと言ってみたが続かず、結局拙い英語で理解し合えたのだ。昨日はトボンサンに登ったと彼女が言った。なんだか似ていてまた大笑い。こんな出会いが本当に嬉しい。

韓国の山は全く強引に下らせる(登らせる)。花崗岩に鉄杭を打ち込み、鎖を垂らしてある。立派な階段も連なっている。お陰様で安心して四囲を眺め、名残を惜しみつつゆっくり下ることが出来た。感謝。

さて下山後、日本では温泉に入ってから帰ります。韓国でも！と予め調べておいたスパへ向かった。受付のお姉さんは日本語ペラペラ。今日いっぱいいた汗をすっかり流し気持ちよく機上の人となったのである。

一泊二日の強行軍だったが、天候に恵まれて山に登り、人とふれあうことができ楽しかった。「今度行く時は付き合ってもいいよ」という友も現れ、はや次の計画を練っている。



(整備された登山道)